

114  
A3545



英國銀價下落取調役報告ノ事

横濱シヤバンウキリイメル新聞中  
倫敦經濟雜誌抄録ヲ譯ス

下院 銀價下落取調掛報告ハ甚ク有用ノ文書ニ  
シテ 該掛長官コステン氏ノ立案スル所ニ  
其取調殆ント至ラサル所ナクシテ明瞭精確ナ  
ル實ニ同氏ノ長技ト為ル所ナリ右掛役ハ救濟  
方ヲ講究スルノ命ヲ蒙ラサリシト虽氏其事情  
ヲ擧ゲル一遺漏ナクシテ之ガ原因ヲ分析スル  
一精細ナリ故ニ後來ノ計ヲ議スルニ於テハ之  
ニ由テ便宜ヲ得ル極テ大ナリトス蓋シ病ヲ治  
セント欲スル者ハ先ク其微候ヲ詳察セザル可  
ラス重患難症ニ至テハ最モ然リトス若シ夫レ  
未ダ其微候ヲ詳察セズシテ先ツ病ヲ治セント  
セハ甲症ニ處スルニ乙症ニ適スル藥ヲ以テシ

大正十一年四月  
贈月

校





患者ヲシテ愈苦惱セシムルニ至ラザル者鮮シ  
 銀價下落ノ原因最モ著明ナル者ニシテ取調掛  
 ノ第一ニ論ズル所ノ者ハ米洲ニ於テ新開ノ礦  
 坑産出多クシテ且ツ迅速ナル是レナリ夫レ在  
 昔以来礦坑新ニ開クルト虽モ其成果見ル可キ  
 者アルニ至ルハ極テ遲緩ナリ即チ亞當斯密氏  
 ノ説ノ如ク米洲ノ礦坑開鑿ノ後初テ英國工銀  
 ヲ輸入セシハ一千五百二年ニシテ一千五百四  
 十二年白露国波の斯礦坑但シ最モ豊饒ナル礦也ノ開鑿アリ  
 シト英國ニ於テ銀價ノ差稍見ル可キニ至リ又  
 ハ一千五百七十年ヲ以テ初メトス此時ト虽モ  
 其差誠ニ些少ニシテ爾來數十年ノ間ニ於テ漸  
 ク増加セシト虽モ亦緩且少ナルノニ曩時米洲

ろこ

加利福尼亞及豪斯得刺利ニ於テ金坑多ク發見ア  
 リシニ由テ世人多ク頗ニ其價格ヲ動サシメテ  
 想像セシト虽モ亦敢テ然ラス爾來金價或ハ昂  
 貴セシト虽モ今姑ラク之ヲ爰ニ記セス蓋シ其  
 實ニ過キシヲ恐ルレバナリ  
 我國人ガ喋々米洲新開礦坑ノ事ヲ云フニ至リ  
 シハ客秋ヲ以テ初トス今取調掛ノ報告ニ從ヒ  
 銀價ヲ記スル左ノ如シ  
 七十五年中平均價格 五十六ペンス八分ノ七  
 七十五年一月中ノ昇降 五十六ペンス八分ノ七  
 同 二月中ノ昇降 五十四ペンス八分ノ七  
 同 三月中ノ昇降 五十四ペンス八分ノ七  
 同 四月中ノ昇降 五十四ペンス八分ノ七



同 五月中ノ昇降 五十二ペンスヨリ五十二ペンス

同 六月中ノ昇降 五十二ペンスヨリ五十二ペンス

租 三余輩ガ之ヲ記スル時ノ銀價ハ四十七ハ

ハ、レ、ス、ニ、シ、テ、七、十、五、年、中、平、均、ノ、價、格、ニ、比、ス、

レ、バ、貳、割、ノ、減、少、ナ、リ

然レモ右ニ記載スル所ノ比較ハ同物ノ比較

非スシテ銀ヲ以テ金ニ比較シタルナリ而シテ

世人ノ礦坑新開ニ由テ銀價ノ下落ヲ論スレハ

銀ヲ以テ一般ノ貨物ニ比スルナリ然レモ銀ヲ以テ

本位貨幣ニスル國ヲ視ルニ少シモ上条ノ如キ割合ニテ

諸物價ノ騰貴シタルヲ見ズ蓋シ其騰貴ノ勢緩

且遲ニシテ殆ント察シ見ルヲ能ハザルナリ若

シ夫レ物價ノ騰貴ニ害ナルトキハ通用ノ銀貨

三三

モ亦一割ノ増加ナキヲ得ス然ラザルトキ貨物

ノ流通停滯シテ大ニ不便ヲ生ズルナリ然リト

虽モ通用ノ銀貨少シモ増加アルヲナキヨ見

ハ則物價ノ騰貴セザルヲ知ル可キナリ取調域

乘此ニ曰ク米國ニ於テ銀ノ産出増加セシハ固

ヨリ論ナシト虽モ米國ヨリ英國へ輸入ノ銀量

一千八百七十三年平均價格五十九「ペンス」四分

ノ一ナリシ以来少シモ増加アルヲナシ唯増加

ナキノミナラズ一千八百七十五年ノ如キハ總

高三百零九万二千封度ニシテ一千八百六十九

年以來少トス日身曼通貨條例ヲ改メシニ

由テ銀ヲ賣出スト虽モ今年四月廿六日ニ至ル

マテハ其總額六百万封度ニ出テサレナリ



ト  
 夫レ米國産出ノ銀ハ大抵皆英皇ニ決ラテ  
 シ或ハ米君 經テ直ニ支那ニ至ルアリト  
 其額甚ノ少ニ而シテ東洋ノ銀ヲ以テ通貨トス  
 ル諸國ニ於テ物價一般ニ騰貴セバ銀貨亦隨テ  
 多カラザルヲ得ザルヲ以テ銀ノ東洋ニ行ク愈  
 多カル可キナリ然ルニ今米國ヨリ支那ニ輸送  
 スル銀高少キヲ視ルトキハ則東洋ノ銀貨增加  
 ナキナリ知テ可クシテ物價ノ騰貴ニ至ラ  
 サルヲ示明ナリ唯銀價ハ倫敦市場ノ金價  
 シテ下落シ而シテ他ノ市場ニ於テモ亦其下落  
 ヲ現ハセシハ蓋シ倫敦市場ノ時價ニ從ヒシノ  
 然レモ此價格ノ衰ハ最モ奇トス可キモノ十

る

リ曩ニ豪斯特刺利及ヒ加利福尼亚ノ金坑ノ發  
 見ノ時ハ如此景況ヲ現出セズシテ當時銀價ニ  
 比シテ金價ノ下落ハ今日銀價ノ下落スル如キ  
 甚シキトラス即チ左ニ銀價ヲ掲示シテ其昇  
 騰ノ漸豆緩ヨリシヲ明ニセシ

一千八百四十八年中平均銀貨	五十一ペンス半
一千八百四十九年中	五十一ペンス四分三
一千八百五十年中	六十ペンス十六分一
一千八百五十一年中	六十一ペンス
一千八百五十二年	六十ペンス半
一千八百五十三年中	六十一ペンス半
一千八百五十四年中	六十一ペンス半
一千八百五十五年	六十一ペンス十六分一

内務省



一千八百五十六年

十一月三十一日

此ヲ以テ視レバ當時ノ銀價ノ昇騰ニ僅少ニシテ現今比スレバ甚ダ怪シム可キガ如シ然リ而シテ銀坑ハ固リ豊饒ナル見今銀坑ノ上ニ出ツ故ニ今ノ銀價下落ハ銀ノ産出大且速ナルニ由ルニ非ガルナリ取調掛ノ言フ所ニ依レバ一千八百七十五年ハ米國ヨリノ輸出高ハ前數年ヨリ更ニ少シラス今爰ニ千八百七十六年六月間ノ數ヲ舉テ前年ノ數ニ比スル左

米國ヨリ輸入銀高

一千八百七拾四年	但し前月	二百零四万六千九百二十拾五封度
一千八百七拾五年	同上	一百二拾九万三千二百五拾八封度

三五

一千八百七拾六年 同上

一百二十九万三千八百五拾一封度

此ヲ以テ視レバ倫敦市場ニ於テ銀價ノ下落甚シトモ唯鑛坑新ニ開ケシヲ視テ疑懼ノ起ルベシトモ唯鑛坑新ニ開ケシヲ産出非常ニ多キベシトモ價既ニ下落ニ趣クノ時ニ際セシヨリ其影響ヲ市場ニ主ル最モ非常ナリシナリ今取調掛ノ言フ所ヲ舉ルテ左

一千八百六十二年ヨリ六十六年迄毎年平均銀價 六十二万三千三百六十一封度  
 一千八百六十七年ヨリ七十二年迄 六十一万九千七百六十一封度  
 一千八百七十四年 六十一万九千七百六十一封度  
 一千八百七十五年 六十一万九千七百六十一封度



此ヲ以テ視レバ價  
調拭ノ説ク可ク原因  
嚇弱ニ以テ愈價格ヲ下落セシムル  
以テ可スヲ左ノ如シ  
第一原因ハ日耳曼ニ於テ銀貨ヲ舍テ金貨ヲ用  
ウル是ナリ抑此原因タル是ク有力ナルモノ  
シテ但豫メ推測シ難キ者アリ故ニ其影響ノ及  
可ハ常ニ大ナリ蓋シ日耳曼政府ハ其價賣  
トル銀多寡幾許ナルヤ之ヲ賣ルニ其價ノ幾多  
ナランニ欲スルヤ商人ノ之ヲ知ル者  
ルヲナシ夫レ市場ノ景情ヲ壓着スル者不  
實ヨリ大ナル者ナシ而シテ日耳曼國スル所  
銀貨ノ多寡其價ノ貴賤測リ知ル可ラザル彼レ

ガ如クニシテ其不確實ナルト最モ甚クシ其銀  
價下落ヲ起シ来ルノ力ハ有スル最モ大ナリ蓋  
銀市場景況ノ之ニ由テ張縮スル猶ホ理及普尔  
於テ綿花ノ將ニ輸シ来ラントスル多寡  
可ラザル所ニ當テ綿市場景況ノ張縮  
如クニシテ此ノ如ク市場ニ於テハ商人後夫ノ  
景況ヲ先知スルヲ能ハザルガ故ニ買フニ隨テ  
賣ラントラ欲セリ是ヲ以テ銀價ノ下落頗ル甚  
シク且速ニシテ進路眼見ル可キノ需用給  
ノ緩急ヲ察スルノミナル人ハ其果  
以テ之ヲ言スルヲ能ハザル所ナリ  
第二原因ハ刻旬同盟  
國即佛蘭西白耳

る

市



金銀ヲ以テ兩十ガ

造幣局へ送ル者

一ナリ、鑄造シテ之ヲ還へセリ是ヲ以テ造幣

鑄造ニル所ハ貨幣ハ其賤價ノ餘ニテ人民賤價

ノ餘ヲ以テ貴價ノ餘ヲ買フコトヲ得タリ曩ニ棉花

ノ凶歉ナル時ニ當リ佛國棉花ヲ買フ為ニ通用銀貨

ヲ印度ニ送ルコト通用常額ノ半ニ至リ其不足ヲ補

フニ急需ナキ金貨ヲ以テセシモ蓋シ此ニ由テナリ若

シ此數國金銀兩十ガ本位貨幣トスルノ制ヲ廢スル

コトナカリハ則彼日耳曼ニ於テ貨幣改造

ハ銀ノ價下落ノ色ヲ見ハス片ハ皆直ニ佛國ニ流

入シ以テ騰貴ノ色アル金ヲ買フ可ク而シテ銀ハ

市場ヲ去テ金ハ市場ニ来リ金銀ノ價現今ノ如

ろ七

キ甚シキ差アルニ至ラザル可キナリ故ニ銀市

場一般ニ波及スル所ハ影響ハ固ニ淺クニシ

テ殆ンド見ル可キ者ナカル可キナリ然リト雖

モ佛國等彼刺向同盟諸國銀ノ濫入ニ堪ユレド

能ハザル又以テ銀貨鑄造ノ數ヲ限リ以テ監リ

ニ日耳曼ヨリ出ス所ノ銀ヲ取ラズ彼レハ銀ヲ

出賣シテ以テ其辨治ヲ増シ此レハ之ヲ取ルコト

ヲ欲セズシテ以テ需用ヲ減ゼリ是ヲ以テ市場

ノ景況頓ニ錯乱ノ主ゼリ

第三原因ハ英國政府一リ印度宛ニ振出ス所

ノ切金貨ノ増加是レナリ即テ取調掛ノ言フ

所ヲ引テ之ヲ左ニ置

英國政府ノ支費ニ

ハニ印度ヨリ純

印度純



ムル町ノ金額ハ印度ニ  
度ヨリ一千五百  
大ニ銀ノ毎年産出金額ノ半ヨリ更ニ順  
ル多キヲ視テ見ル可シ  
此増加ハ多年間ニ成リシ者ナリト雖モ其影  
響ノ市場ニ及ビシハ極テ軌近ニ在リ何トナ  
レバ印度ニ於テ鉄道築設ノ事アリテ英國ニ  
於テ醵集シタル貨幣ヲ印度ニ於テ支費スル  
ト多クシテ印度ニ於テ収集シタル貨幣ハ英  
國ニ支費スル所ノ高ニ相敵セシガ故ナリ  
今前ニ舉グル所ノ政府支費額ハ當今ノ常費  
額トス故ニ其制限メガルノ間ハ此金額ヲ  
減ズルノ道ナキナリ

ろハ

印度ヨリ英國ニ納ム可キ貢金此ノ如ク増セシ  
ニ由テ来ル所ノ影響ハ尋常ノ例ヲ以テ推論ス  
可ラサルモノアリ何トナレハ英國印度兩國交  
易上ノ關係尋常ト異ナル者アレバナリ若シ夫  
レ兩國ノ間交易上ノ關係異常ノ者ナカリセハ  
則此ノ如キ貢金アリト雖モ尋常彼レヨリ此ニ  
輸来ス可キ金額ニ於テ差異ヲ生ズル決シテア  
ルナシシ弥尔氏ノ論ニ曰ク兩國ノ交易ヲ以テ  
互ニ平均ノ有様ニ於テ在リト(少輸シ入過平均ナテ  
云フ)假想シ而シテ甲國ヨリ乙國ニ拂遣セザル  
可ラザル者ナルトキハ第一著ハ貨幣ヲ以テ  
遣セザルヲ得ル因テ兩國ニ於テ物價下落シ  
以テナリ乙國ニ於テ物價騰貴以テ増スヲス

務  
首



ルヲ致スナリ故ニ平均ノ輸出ヲ増シテ輸入  
 ヲ減ズルハ自然ノ力ニシテ暫時時間ハ乙國ヨリ  
 甲國へ貨幣輸送ニ到底互ニ平均スルニ至ル  
 可キナリ属國ニ還ハス可キ負債アリテ其額属  
 國ヨリ送来ス可キ貢金等ノ額ニ同シキハ亦  
 此ノ如クニシテ貨幣ヲ送遣スルヲ要スル  
 少ク輸出入ノ平均ナシト虽氏拂遣ス可キ金額  
 ハ兩國共ニ同シクシテ為換相庭モ各面價ヲ以  
 テシ彼ノ負債ハ我ノ負債ト相敵ニ拂遣モ然貢  
 モ實際貨物ヲ以テセサルヲナカル可シ  
 然リ而シテ今印度ヨリ英國ニ納ム可キ貢金ノ  
 増加ヲ論スルニ及ビテ、  
 弥尔氏ノ説ヲ以テ推ス  
 可ラザルナリ英印ノ間交易相平均ノ有様ニ在

る九

ラスニテ属國ヨリ銀ヲ主國ニ輸来スルノ毎年  
 ニシテ曾テ絶ヘザルナリ故ニ属國ヨリ輸来ノ  
 額愈増スルニキハ主國ヨリ輸送スル額愈減セサ  
 ルヲ得ズ而シテ是レ出入ノ差ヲ平均スルハ自然  
 ノ勢ニシテ英國ニ於テモ亦然リトス今取周楸  
 ノ報告ヲ挙ル之ヲ徴ス

一千八百六十九年ヨリ七十二年會計年度

迄ニ英國ヨリ印度ニ輸出セシ平均銀高

一千八百七十二年ヨリ七十五年會計年度

迄ニ英國ヨリ印度ニ輸出セシ平均銀高

減高

印度ヨリ英國へ納ム可キ貢金ノ増加左ノ如シ

一千八百七十二年ヨリ七十五年會計年度

四百十方封度  
五百九十万封度

如シ



迄ニ印度宛ノ政府切手金高平均

二百五封度

一千八百六十九年ヨリ七十二年會計年度

迄同

七百四十万封度

增高

五百二十万封度

此如クナルヲ以テ銀ノ需用スル者日ヲ進テ減シ其影響ノ市場ニ及フ最モ甚クシテ銀價日ニ下落スルニ至レリ

上文掲グル所ノ三大原因ハ即チ銀坑新聞ノ聞コユルニ當テ頗ニ金價ニ比シテ銀價ヲ下落セシメ其勢二十五年以前金坑新聞ノ時銀價ニ比シテ金價ヲ下落セシメ勢ト大ニ緩急ヲ異ニセシ所以ノ原因ニシテ此他尚一ニ小原因アリト虽氏一々枚舉スルヲ須井サルナリ故ニ往日ノ勢

六十

ト現今ノ勢トハ其相同ジカラサル誠ニ怪シム可キモノアリト虽此三大原因ヲ熟察スレバ則之ヲ説明スル甚ダ難シト為サルナリ

新聞鑛坑ヲ論ズルニ至テハ取調最モ謹ミ敢テ濫リニ該鑛坑ニ関係アル人ノ所説ヲ取テ徵證ト為サス其或ハ實ヲ過キテ産出ノ多キヲ稱シ以テ開坑會社株式ノ價ヲ騰昇セント欲スルアラシムラ恐ル故ニ其引ク所ノ徵證ハ皆之ヲ合衆國政府ノ官書ニ取レリ今其概計ヲ掲グル

合衆國産出總額概計

一千八百六十四年ヨリ六十七年	迄毎年平均産出高	二百三十万封度
一千八百七十二年	産出高	五百七十九万封度



一千八百七十四年全

六百四十万封度

一千八百七十五年全

六百四十万封度

一千八百七十六年全

九百万封度

右数ハ甚タ大ナリト為スコラズシテ之ヲ銀ノ  
 以テ本位貨幣ト為ス所ノ各國ニ分配スルキ  
 ハ甚タ少ナカラザルヲ得テ而シテ金ノ産出モ  
 亦甚タ大ナルヲ以テ金ニ比シテノ銀ノ影響ハ  
 及ブ所大ナリト為スコラザルナリ取調掛合衆  
 國「子バタ」此礦山博士ノ言ヲ引テ曰ク「一千  
 七十三年及七十四年ノ二ケ年間此礦坑<sup>即チ</sup>  
 七十三州ヨリ<sup>ノ</sup>産出ノ地金高総テ五百万弗ナリ而  
 シテ其内多分ハ六月以來ノ産出ナリ九月中産  
 出ハ五十六万二千弗ニシテ十月中ハ六十一万

ろ子

弗毎日産出礦坑<sup>ノ</sup>量目大約四百噸ナリ但シ地金  
 總高ノ内四割<sup>ニ</sup>歩<sup>ニ</sup>金<sup>ニ</sup>シテ銀ニ非スト到底  
 此等ノ礦坑ヨリ金ノ産出ガ銀ノ産出ト相共ニ  
 増加セバ其影響ノ市場ニ及ブ者固ヨリ現今ノ  
 景況ト大ニ異ナラザルヲ得ザルナリ  
 余輩論シテ此ニ至リ盡ク事情ヲ探究セリ故ニ  
 余輩ノ昔シム所ヲ損害ハ果シテ何タル者ナリ  
 テ之ヲ知ル<sup>ト</sup>甚タ易シ抑モ銀價ハ銀ヲ以テ本  
 位貨幣トスル所ノ諸國ノ物貨ニ比シテ下落セ  
 シニ非ス蓋シ此ノ如キ下落ヲ生スル程ニ銀  
 産出増加セズ亦縱令増加スルアルモ未タ此ノ  
 如キ下落ヲ生スル程ニ久シキ年月ヲ経ザルナ  
 リ而シテ實際ノ景況ニ察スルニ物貨ニ比シテ



銀價ノ下落アルヲ視ス故ニ現今ノ損害ハ物價  
銀價ノ差ニ由テ起リシニ非サルナリ銀産出  
増加頗ニ例外ニ出テ銀價為メニ金ニ比シテ下  
落ヲ生ゼシニ非ス蓋シ銀ノ産出ハ大ニ増シタ  
ルニ非ズシテ且ツ其産出ノ内倫敦ニ輸来セシ  
者アラザレバナリ故ニ現今ノ損害ハ銀産出ニ  
増シテ其價ヲ下落セシニ由テ起リシニ非ルナ  
リ  
銀産ノ費用大ニ減却セシニ由テ金價ニ比シテ  
銀價下落セシニ非ス蓋シ時未ダ久シカラズシ  
テ産出費用結局幾許ナルヤラ確言スルヲ得  
ス故ニ現今ノ損害ハ産出費用ノ減却シテ銀價  
ヲ下落セシニ由テ起リシニ非ルナリ夫レ非常

るなり

ニ豊饒ノ鑛坑近來新聞アリシハ世人ノ知ル所  
ナリ然レモ銀價ハ長ニ等ノ鑛坑ヨリ出ル所ノ  
銀ニ由テ定ル者ニ非ヌシテ米穀ノ價ハ最モ肥  
沃ナ田地ニ生ジタル米穀ニ由テ定ムル者ニ非  
サルト異ナルヲナシ唯最下等ノ鑛坑産出ノ費  
用ニ随テ銀價自ラ定ムナリ故ニ最下等鑛坑ノ  
産出人常ニ其價ヲ定ム而シテ上等鑛坑ノ産出  
人ハ之ニ随テ格外ノ利益ヲ得ルモノナリ然リ  
而シテ今新聞銀坑果シテ如何ナルモノナルヤ  
之ヲ確言スルハ尚ホ数年間ノ經驗ニ由ラザレ  
ハ則能ハサルナリ然レモ前年来類似ノ事情ヲ  
推シテ之ヲ察スルニ彼新聞鑛坑ハ、常ニ豊饒  
ナルモノニ非ヌシテ或ハ恐ル更ニ三等ナルモ



ノナラシムルヲ以テ之ヲ視レハ則一身曼政  
右ニ論スル所ヲ以テ之ヲ視レハ則一身曼政  
ハ銀貨ヲ廢シ勅甸同盟各國ハ從來ノ如ク銀ヲ  
取ルルヲ欲セズ而シテ英國政府ハ印度貢金増  
加スルニ由テ銀ヲ需要セサルニ由テ銀市場ニ  
於テ景況既ニ異常ノ色ヲ現ハセリ此時ニ當テ  
怡モ鑛坑新開ノ報アリ此ニ由テ人心銀ノ産出  
頓ニ増加セシメテ恐レ以テ非常ノ下落ヲ生シ  
来リシナリ

余輩ガ現今ノ損害ノ原因ヲ説明スルハ此ノ如  
シ而シテ或ハ印度ニ銀貨ヲ廢シ金ヲ以テ之ニ  
代ヘ以テ現今ノ損害ヲ救フ可シト云フ者アリ  
ト虽モ亦其原因ヲ知ラズモテ唯空想ニ出ルモ

ノナリ夫レ印度管轄廳ハ貢税ヲ収ムルニ銀ヲ  
以テスルガ故ニ現今銀價ノ下落ニ由テ損失ヲ  
蒙ルル固ヨリ少ナカラス然ルニ今却テ此計ヲ  
行ハシメバ最貴ノ市價ヲ以テ金ヲ買ヒ而シテ  
最賤ノ市價ヲ以テ銀ヲ賣ラサルヲ得ス其害ノ  
大ナル遂ニ印度管轄廳ヲシテ會計ニ困頓セシ  
ハルニ至ル可シ  
唯交易市場ヲ制限セズモテ自然ノ勢ニ任スル  
ハ是レ確實ノ計ト為スナリ蓋シ市場ノ勢弱キ  
ハ需用緩ナルニ由ル需用急ナルハ市場ノ勢  
故ニ復スルヲ知ル可キノ故ニ今政府其間ニ  
闖入スルヲナク之ヲシテ其自然ニ任セシメバ  
交易ノ勢復タ其需用ヲ急ニセザル能ハザルナ



リ抑今銀價ノ金ニ比シテ下落セシ時ニ當リ印  
度及他ノ銀ヲ用ユル所ノ諸国ヨリ銀ヲ輸入  
ルハ夫ニ英國ヲ利スルモノナリ試ニ之ヲ論セ  
シ英國人今金ヲ以テ銀ヲ買フハ其高ハ前日  
ニ比スレハ多キヲ得可シ而シテ印度ニ銀ヲ輸  
出スルハ損アリテ得ナシ故ニ其勢遂ニ英國ヨ  
リ印度ニ物貨ノ輸出多クシテ印度ヨリ英國ニ  
物貨ノ輸入少クシテ貨幣ヲ印度ニ輸送セサル  
ト能ハサルニ至ル可シ是ヲ以テ今自然ニ任  
シテ手ヲ下ストクニバ則需用漸ク急ニシテ  
到底銀價ノ下落ヲ救フニ至ル可キナリ